



Junior Drive
Shiraishi Racing School

REPORT

報告書

8月16日（日）岡山フォーミュラトレーニング

8月19日（水）舞洲フォーミュラトレーニング

8 2026
Aug





Track
OKAYAMA

Driver
Yushi kitamura

久しぶりのドライコンディション

4期生の北村有志（14）がトレーニングに参加しました。この日の天候は曇りで、雨の降る可能性も低く、北村にとっては久しぶりとなるドライコンディションでの岡山国際サーキットのトレーニングとなりました。この日は30分×4本のセッションが行われます。

1セッション目は、久しぶりのドライコンディションということもあり、無理にペースを上げることはせず、少しずつ走行ペースを高めていくことに専念しました。30分間の走行を最後まで走り切り、走行後にはデータを見直して次のセッションに備えます。

2セッション目がスタートします。開始直後から雨が降り始め、路面はわずかに濡れた状態となりましたが、ドライタイヤのままコースインし、周回を重ねていきました。その後、一時的に雨が止み、路面は再び完全なドライコンディションへと回復しました。途中、赤旗によるセッション中断もありましたが、トラブルなく最後まで走り切り、このセッションを終えました。

3セッション目は、再びドライコンディションでスタートしました。しかし、この日の北村は思うようにペースを上げることができませんでした。また、成長期による体格の変化でシートポジションが変わった影響もあり、シフトミスが目立つ場面も見られました。課題が明確になったところで、最後のセッションでの修正を目指します。

そして、最後の4セッション目がスタートします。この日はシフトミスが多かったため、腕の力の入れ方などを工夫しながら、ドライビングの修正に取り組みました。意識して走行を重ねた結果、シフトミスは格段に減少し、ラップタイムも一気に向上していきました。

最後まで集中力を切らすことなく、良い走りを見せた北村。この日のトレーニングを通じて課題を明確にするとともに、最後のセッションではしっかりと修正につなげることができました。





35°C

Track
MAISHIMA

Driver
Toyoda/Sawa/Wada/Ishikawa

マシントラブルにより途中で終了

5期生の豊田翔太郎（15）、6期生の和田光ノ介（14）、石川大翔（13）、澤恒太郎（12）の4名がトレーニングに参加しました。この日の天候は前回に引き続き晴れとなり、真夏の厳しい暑さの中でのトレーニングとなりました。

恒例となっている朝の脱出訓練では、4名全員が基準タイム内で脱出できるようになり、これまでのトレーニングの成果と成長が見られました。脱出訓練を終えると、走行メニューへと移ります。午前中は、シフト操作とブレーキングの習得を目的としたストレート区間での慣熟走行を行いました。最初にマシンへ乗り込んだのは豊田。4名の中でも最もマシンに慣れた走りを見せ、特にブレーキングでは鋭さが増しており、これまでのトレーニングからさらに一段階レベルアップした走りを披露しました。続いて石川が走行。これまで4名の中で最も苦戦していましたが、夏休み期間中にシミュレーターで集中的にトレーニングを行った成果が表れ、走りは大幅に改善。以前とは明らかに違うスムーズな操作を見せました。3人目は和田。シフト操作、ブレーキングともに鋭さが増しており、基礎技術が着実に向上していることを感じさせる走りとなりました。最後に澤が走行します。4名の中で最年少かつ身長が最も低いことから、ドライビングポジションがなかなか定まらず、序盤は苦戦を強いられました。それでも徐々にマシンに慣れていき、安定した走りを見せるまでに持ち直しました。

昼休みを挟み、午後からはコースを周回するサーキットトレーニングへ移行します。この日はコース上に特設の縁石が新たに設置され、これまで以上に実際のサーキットを意識した環境でのトレーニングとなりました。サーキット走行では、4名それぞれが前回のトレーニングで浮き彫りとなった課題の克服に取り組みます。豊田はマシンのスライドコントロールにさらに磨きがかかり、状況に応じてマシンをコントロールする能力が向上。ドライビングの幅が広がりました。石川は課題としていたシフト操作が格段に改善。午前中からその成果が見られ、前回とは比較にならないほど大きな成長を感じさせる走りとなりました。和田は基礎的な走りに余裕が生まれ、ただ走るだけではなく、自分の走りを考えながら操作できるようになってきました。これまで以上に周囲の状況や自身の課題を意識した走行ができるようになっていきます。澤は、この日の4名の中でもドライビングポジションの問題から朝一番に大きく苦戦しました。しかし、走行を重ねる中でポジションの合わせ方にコツを掴んだのか、午後には徐々にスムーズな走りを取り戻し、安定して周回できるようになりました。そして、いよいよタイム計測セッションが始まったところでマシントラブルが発生。この日の走行はここで終了となりました。タイム計測による成果の確認、そしてロガーデータの分析については次回のトレーニングへ持ち越しとなります。今回は4名それぞれに前回からの明確な成長が見られた一方で、まだまだ改善すべき課題も残されています。次回はロガー分析を通して今回の走行を振り返り、それぞれの課題をより具体的に明確化しながら、さらなるレベルアップを目指します。



SPORTS KART
2K
Rental Kart Land ISK

舞洲スポーツアイランド

Y's
Parts

GARAGE38
Luce ed ombra

FTK corporation

LAPs
PRO RACING DRIVERS

INLAY
STICKER'S
LOCKOMO

PAINT BY
O.N.O.inc

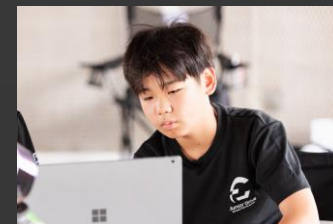
III River inc.

TV
TOKYO

DRIVERS PERFORMANCE

Yushi - KITAMURA (14) Okayama

これまでは子どもらしく「楽しい」を優先して教えてきましたが、ここからはプロを目指すために、厳しいことにも向き合える人間へと成長していく必要があります。今はわずかな状況の変化でペースを大きく乱してしまうため、改善が必要です。世界を目指すのであれば、今の走りや考え方では通用しません。ここから一気に成長を加速させたいです。



Shotaro - TOYODA (15) Maishima

現在の舞洲では、一人抜けた速さを見せている豊田。これからライバルたちもレベルを上げてくる中、追われる立場としてどれほど成長できるのか、非常に楽しみな存在です。



Konosuke - WADA (15) Maishima

先月の走りから大きく進化を遂げた和田。特にハードブレーキングでの精度の高さには驚かされました。今後はシフトミスを減らし、さらに安定した走りを目指したいところです。また先行している豊田を追い抜く速さを見せてもらいたいです。



Yamato - ISHIKAWA (13) Maishima

前回から大きく前進した石川。今回、最も伸びしろを感じさせました。シフト操作の基礎が身につけてきたので、今後はスピードへ意識を移し、速さを求めた走りにスイッチしてもらいたいです。



Kotaro - SAWA (12) Maishima

最年少の澤は身長が最も低く、ドライビングポジションが前寄りになってしまうため、シフト操作に苦戦していました。しかし午後からはそのポジションにも適応し、問題なく走れるようになりました。舞洲でのトレーニングも残りわずかとなるため、年上勢に引けを取らない走りを目指してもらいたいです。





Junior Drive
Shiraishi Racing School

SPORTS KART



舞洲スポーツアイランド



GARAGE38
Luce ed ombra

FTK corporation



PAINT BY
O·N·O.inc

III River inc.



Junior Drive
Shiraishi Racing School

